

# ねずみの嫁入り

くすやま まさお  
楠山 正雄

むかし、むかし、ある家のお倉の中に、お米を持って、麦を持って、粟を持って、豆  
を持って、たいそうゆたかに暮らしているお金持ちのねずみが住んでおりました。

子供がないので神さまにお願いしますと、やっと女の子が生まれました。その子は  
ずんずん大きくなって、かがやくほど美しくなって、それはねずみのお国でだれ一人くら  
べるもののない日本一のいい娘になりました。

こうなると、もうねずみの仲間には見わたしたところ、とても娘のお婿さんにするよう  
な者はありませんでした。ねずみのおとうさんとおかあさんは、  
「うちの娘は日本一の娘なのだから、何でも日本一のお婿さんをもらわなければなら  
ない。」

と言いました。

そこでこの世の中でだれがいちばんえらいかという、それは高い高い空の上から  
世界中をあかるく照らしておいでになるお日さまの外にはありませんでした。そこでおと  
うさんはおかあさんと娘を連れて、天へ上っていきました。そしてお日さまに、  
「お日さま、お日さま、あなたは世の中でいちばんえらいお方です。どうぞわたくしの娘  
をお嫁にもらって下さいまし。」

といて、ていねいにおじぎをしました。

出典：青空文庫 [http://www.aozora.gr.jp/cards/000329/files/18335\\_11944.html](http://www.aozora.gr.jp/cards/000329/files/18335_11944.html)

朗讀：青空朗讀 <http://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd064.html>

朗讀：You tube <https://www.youtube.com/watch?v=2xZPtwYnzo>